

ロシア為替週報

2021年11月29日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉

(11月20日～11月26日)

USD/RUB: 73.720～75.930

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、下落。急落の先行から、数日は安値圏における横ばいにとどまったものの、週末を前に直近安値(7月8日の75.325)を割り込み、今年4月来7カ月ぶりの安値となる75.930まで下落した。20日のルーブル急落は、週明け19日以降進んだ原油安の余波と考えられた。原油安の要因は、前週末(19日)、オーストリア政府がコロナ禍再燃を受けた行動制限(ロックダウン)導入を発表したことで、経済活動の低迷=燃料需要減が警戒されたことだった。また、並行して、米政府が戦略石油備蓄(SPR)を放出するとの観測が繰り返し聞かれたことも原油価格押し下げに貢献したものと考えられた。実際、米政府は、23日、日本、中国、インド、韓国、英国との協調によるSPR放出を発表したが、この発表を受けて逆に原油は反発。放出の規模が市場の期待を下回った上、(ある意味当然のことながら)将来、SPRの一部を積み直すことが義務付けられた点などが嫌気された。その後、方向感を欠いた横ばいに膠着したルーブルが、もう一段水準を切り下げたのは26日。南アで新たに確認された新型コロナ変異株に対する警戒感の高まりが、世界景気減速=リスク回避の思惑を高め、世界的な株安、円全面高、新興市場通貨全般の売りにつながった。世界景気減速に対する警戒感、上述の通りリスク回避の新興市場通貨売りを招いただけでなく、燃料需要減=原油安という経路を通じて、ルーブル売りの要因となった。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
11/24	16:00	鉱工業生産(前年比)	10月	+7.1%	+6.0%	+6.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉

(11月27日～12月3日)

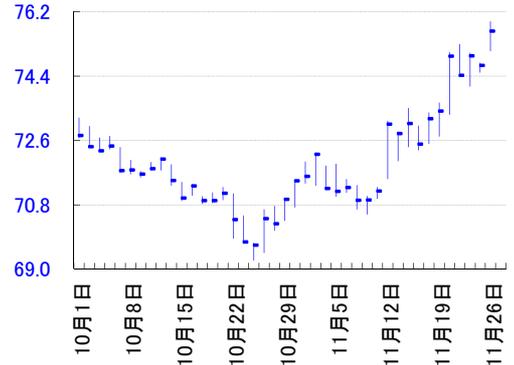
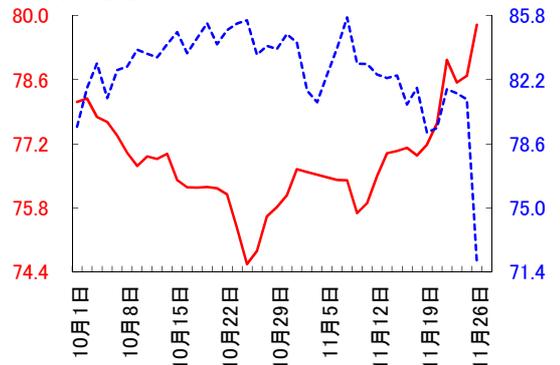
USD/RUB: 75.20～76.40

向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、続落を予想。そもそもルーブル軟調の背景には、ウクライナ国境/黒海周辺におけるロシア軍とNATO軍の緊張があった。「ロシアがウクライナにおけるクーデター画策を支援している」といった報が聞かれたりしたのは(26日)、この間、この緊張関係に大きな変化はない。ルーブルに強気になれない要因だろう。それでも、軍事衝突の回避を前提に、年内、ルーブルの下値は75台半ば(対ドル)くらいを想定していたが、既に同水準まで下落して、更にもう一段の下落を見込まざるを得ない理由は、原油価格の急落。上述の通り、原油価格は26日になって暴落、一日で11%を超える下げ幅を見せたが(ブレント)、その下げの半分は同日モスクワ時間の17:00過ぎに進んだ。値動きから判断して、ルーブルがその部分の原油安を十分に織り込んだとは考え難い。週明け直後から、原油が急反発することでもない限り、ルーブルがこの残り半分の原油安を反映した水準まで続落する可能性は高いだろう。南アで確認された変異株については、ワクチンの有効性や感染力/致死率などに未だ不透明な部分が多く、26日の金融市場の反応には、(米感謝祭後の金曜日で)流動性の低い環境でのパニック的な側面もあったと思われるが、そうしたパニックが週末の間に解消される可能性は(ないとは言えないだろう)高くはないのではないか。他に気になる要因と言えば、ロシア中銀金融政策動向。週次の物価統計は、足元物価が再び騰勢を強めている状況を示しており、11月のロシアCPIは前月比+0.7%前後、前年比+8%台に高止まる可能性を示唆している。ロシア中銀が物価抑制を最優先するのであれば、12月の金融政策委員会(17日)で、前月に続き、+50b.p.を超える大幅利上げに踏み切る可能性も十分に考えられるだろう。ただし、仮にそれが物価抑制には十分であったとしても、ルーブル下支え/押し上げに寄与するか否かは、現時点で判断は難しいものと思われる。

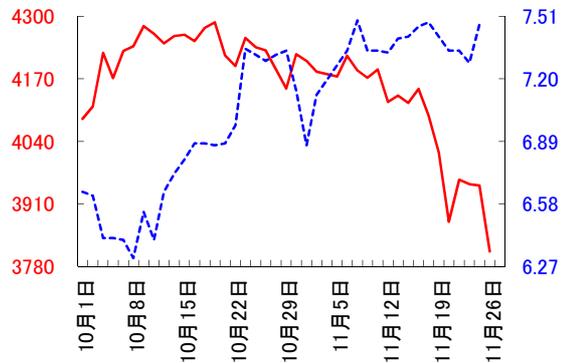
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/3	16:00	失業率	10月			4.3%
	16:00	小売売上高(前年比)	10月			+5.6%
	16:00	実質賃金(前年比)	9月			+1.5%
12/3-12/8		国民福祉基金(USD)	11月			197.8bnr

USD/RUBの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)

株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)
原油価格推移(ブレント直物)

株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		7.50%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+4.3%
失業率	9月	4.3%
消費者物価(前年比)	10月	+8.13%
小売売上高(前年比)	9月	+5.6%
鉱工業生産(前年比)	10月	+7.1%
貿易収支(USD)	9月	+20.0bn

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。